

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月

所属 & 学年 | 理学部 1年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

もともとアジアの地域に興味があったため、シルクロードの文化・ウズベキスタン研修に惹かれた。また、ウズベキスタンには観光では行きにくいこと、フィールドワークという経験を積めることなどから、このプログラムに参加したいと思った。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

フィールド調査の仕方を学べた。事前授業では、調査対象の情報を提供していただきながら、調査目的を具体的にすることができた。また、アンケート調査の行い方、アンケート調査を行う上での配慮などを学んだ。

現地では、アンケート調査を行う中で、ウズベク人の人にうまく伝わらず、正しくアンケートが行えないことがあり、もっと相手の立場に立つことが大切だと感じた。

帰国後は、レポートをどのように書けば読み手に伝わりやすいかなどを学ぶことができた。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

様々な歴史的建造物、博物館、大学などをまわる中で、歴史や宗教について多くのことを学ぶことができた。実際に見聞きしたことは自分の中で印象強く残り、特にタシケント国立法科大学のイスラーム法の講義は、私の今までのイスラーム教のイメージを大きく変えるものであり、とても興味深かった。

また、現地の学生との交流では、現地学生は学ぶことに対する姿勢が自分よりもずっと積極的で、自分も見習わなければならないと感じた。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

民族や言語が違うのはもちろん、街の風景や習慣も日本とは違って、日常生活を送るなかで様々な違いを見つけられるのがとても新鮮だった。現地の学生と会話をするなかでお互いの国の当たり前なことが世界ではそうではないということに気づけて面白かった。そのなかでも、日本との共通点もあり、自分の価値観を広げる貴重な経験となった。

5. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

健康管理に気を付けた。特に、ウズベキスタンの料理は日本のものと比べ脂っこく、量も多いので、おなかを壊さないように整腸剤を飲んでみた。また、ウズベキスタンはとても日差しが強いので、日傘をさしたり、長そでを着たりするなど日焼けにも気を付けた。危機管理については、荷物から目を離さないように心掛けた。

6. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	160000 円		振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	103600 円		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	円	= スム	
各自での交通費	円	= スム	
その他（小遣い）	10000 円	= 700000 スム	現金 1万円
計			約 27 万円

※ドルはいくら持参しましたか？ 30000 円 = 300 ドル

自由記述欄 *後輩へおすすめしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

※写真を「写真でつづる留学ストーリー」に応募してもよろしいですか？ はい

↓↓↓



スイカのお店



タシケントの通り



地下鉄ホーム



ブハラのお土産



ブハラの町 1



ブハラの町 2

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月
所属 & 学年 | 法学部 4年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

学部の講義でウズベキスタンについて学ぶ機会があり、日本とは異なる政治体制や国家形成の過程に興味を持っていたため。また、応募に先立ち歴史や文化を調べる中で、「シベリア抑留」という点で日本と過去を共有していることに関心を抱いた。現地の学生と交流しながらフィールドワークを進めるこの研修では、ただの観光旅行では得られない知識や経験を獲得できるだろうと考え、履修を希望した。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

「ウズベキスタンにおける日本兵捕虜についての歴史認識と記憶継承の過程」をテーマに、日本人墓地の訪問や「日本人抑留資料館」館長へのインタビュー調査、現地学生へのアンケート調査などを行った。具体的には、日本兵捕虜がウズベキスタンで抑留生活を送っていた事実や、現地住民と良好な関係を築いていたという文献の記述に対して、人々がどのような認識を持っているのかを調べた。

フィールドワークを通して垣間見えたのは、「他国の文化や歴史を尊重する」というウズベキスタンの人々の国民性である。調査結果を掘り下げると、その背景にはイスラーム教の教えや、自国の歴史がソ連によって踏みじられた過去があることを知った。様々なルーツを持つ人がいるため「ウズベキスタン人」と一括りにすることはできないが、その国ならではの考えに触れたことは、貴重な経験であった。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

フィールドワークの事前準備、特にアンケートの作成については学ぶことが多かった。私が最初に作った案は、質問が恣意的なものであったりテーマとの関連性が低かったりと、決して良いものとは言えなかった。しかし、事前授業で先生や他の学生からアドバイスをもらい修正を繰り返す過程で、精度を高めることができた。このように、全員で協力しながら一人ひとりの調査をブラッシュアップできたのは、この研修ならではの経験だと思う。

一方で失敗もあった。ウズベク語に翻訳してもらったアンケートを現地で実施したところ、「質問の理解が難しい」という理由で、ロシア語を母語とする人たちの手を煩わせてしまったのだ。ウズベキスタンでは多言語が共存していることを痛感すると同時に、自分の配慮の足りなさを反省した。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

【郷に入っては郷に従え】

イスラーム教の存在の大きさを日常的に感じた。人によって信仰の度合いは異なるが、私のパートナー学生が比較的厳格であったため、そう感じたのかもかもしれない。「女性だから」と行動を制限され、もどかしさを感じる場面もあったが、それも一つの経験として受け止めた。

また、街中では英語がなかなか通じず、言語の壁に苦労した。現地の先生方や学生の皆さんに助けて頂いたが、自分でもウズベク語とロシア語を事前にもっと勉強するべきだったと感じた。

5. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

全体的に治安は良く、軽犯罪を過剰に警戒する必要はないが、気をつけるに越したことはない。貴重品から目を離さない、単独行動をしないなど、基本的なことは常に意識した。また、空港や駅などの軍事施設では写真撮影が制限される場合がある。撮影が可能な場所かどうか、常に現地の先生に確認をとるようにした（首都タシケントの地下鉄駅ホームは、写真を撮らずにはいられない豪華さだった）。

6. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	約 14 万円		振込
授業料	約 11.5 万円 (1,036USD)	帰国時に 50USD 返金	ウズベキスタン事務所へ支払
滞在費(宿泊費・食費・交通費・通信費)			
各自での食費	約 2 万円 (180USD)	=約 140 万スム	ほぼ現金で支払った。 乗り継ぎの仁川国際空港でのみ カードを利用した。
各自での交通費			
その他（小遣い）			
計	約 27.5 万円		

※ドルはいくら持参しましたか？ 27,750 円 = 250 ドル（70 ドル余った）

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 10月 4日

所属&学年 | 法学部 2年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

昨今のテレビや新聞ではグローバル化を肯定的に捉える言説が多く、やたらと海外経験を勧める風潮があると私は感じていた。本当にグローバル化は良いことなのか、これらの言説・風潮を肯定するとしても否定するとしても、まずは自分が体験しなければ考えを深められないと思い本学の海外研修に興味をもった。その中でアジア現代事情 I を選んだ理由は多々あるが、1番はイスラーム教と女性の関係が気になったからである。憲法学をはじめ法律学を学ぶなかで人権概念を学ぶ機会に恵まれたこともあり、女性の権利と宗教の関係をジェンダーの問題に則して深く学んでみたいと思った。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

私はウズベキスタンにおけるイスラームと女性の権利に関して服装面からアプローチする形でフィールド調査を行った。調査を通じてわかったことは男女で女性が“肌のみえる”服装をすることに対して異なる意見をもっていたということである。女性の方が“肌のみえる”服装に関し肯定的な意見が多く、そのような格好をするもしないも女性の自由であると考えていたのに対し、男性は比較的女性が“肌のみえる”服装をすることは好ましくないと考えていると分かった。

またムスリマの方のスタイルに代表される布等の頭に被るもの（ヒジョブ・スカーフ）についても被るか否か・被る意味などをアンケート調査によって知ることができ、イスラームの伝統的価値観に対する考察を深められた。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

フィールド調査を行うための事前調査として、中央図書館にある書物や Cinii で検索し探してきた論文を読みこむことで、ウズベキスタンの歴史を詳しく知ることができた。ウズベキスタンの近現代史において気になったのはロシア帝国・ソビエト連邦の影響である。啓蒙や上からの近代化の影響を強く受けたウズベキスタン女性は今までの伝統的な服装であったバランジというものを脱ぎ捨てていくことになり、結果的にはその影響が現在の洋服文化を形成していくことになる。歴史的な文脈の中に現在を位置づけることでより深くフィールド調査の結果を分析・理解できるようになったと思う。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

1番は水のありがたみだと思う。日本にいと実体験として水を切望し水に感謝する機会はありませんように思うが、ウズベキスタンではシャワーが温かければ涙がで、湯船に浸ることができれば自然と顔がほころんだ。他にも英語学習の大切さを学んだ。飛行機の中やホテルはもちろん、観光地にあるお店でも英語を用いる機会が多々あり、現地学生の方と日本語での交流を補う形で補助的に英語を用いてコミュニケーションをとる場合もあった。その他挙げ始めればきりがなくらい学ぶことがあったため、他の部分に関してはぜひご自分の目で確認されたい。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

体調には非常に気を付けていた。正露丸等の薬は持って行った方が良いと思う。それに乾燥対策としてリップクリームや保湿クリームも必須。ご飯はとても美味しく足りないということもなかった。日本からのお菓子や非常食は少なくても良いと思う。トイレトペーパーの持参も忘れずに。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	約 15 万円		振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	約 1,000us\$		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	約 3,000 円	= 20 万スム	現金
各自での交通費	約 700 円	= 5 万スム	現金
その他（小遣い）	12,000 円	= 100 万スム	現金
計	約 28 万円		

※ドルはいくら持参しましたか？ 45490円 = 400 ドル

自由記述欄 *後輩へおすすめしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

有名なチョルスバザール



有名なナヴォイ劇場



アヒル



全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月
所属 & 学年 | 農学部 3年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

ポスターや友人の話からこの研修のことを知りました。ウズベキスタンという国のことに関する知識があまりにも少なく、ぜひ行ってみたいと感じたことが最初の履修動機です。それから本研修内容を確認したところ、自分の設定したテーマについて現地調査を行えるとのことで、農学部にも所属している私は日本と全く異なる乾燥した地域であるウズベキスタンでの農業について知りたいと思い、履修を決定しました。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

ウズベキスタンの農業に関する資料を見つけるのがとても難しかったです。学部の先生に直接お願いして論文をいただいたり、検索方法を何度も変更して探したりすることで、自ら動いて資料を集める方法を学べたと思います。また、現地調査においてアンケートの作成をしたのですが、日本ではよく見かけるけれどウズベキスタンの方には答えづらい様式の質問があり、異文化の中で現地の方へ調査を行う大変さも学びました。

調査結果としては、ウズベキスタンの農業の現状を聞くことが出来たり、一般の人々がどのように農業を捉えているのかが分かったりして、とても有意義な調査となりました。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

シルクロードの文化というのがこの研修の大きなテーマで、中央アジアの歴史や文化については初めて学びました。古い歴史を持つウズベキスタンの様々な遺跡を視察し、その歴史を知ることで、訪れたことのなかった遠いウズベキスタンに地と今の自分の暮らしに、日本を含む世界の発展を通じたつながりを感じ、感動しました。今まで歴史を学ぶことにあまり興味を持っていませんでしたが、その楽しさを知れたと感じています。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

一般の人に英語が通じない国で長期間過ごしたのは初めての経験で、コミュニケーションを取ることに不安を感じていました。必要なときには現地での学生パートナーが通訳をしてくれましたが、お店の人や町の人がカタコトの日本語や英語でも話しかけてくださり、ジェスチャーでコミュニケーションを取ろうとくださって、とても嬉しく感じました。ウズベキスタンの方々はとても優しくフレンドリーで、楽しい日々を過ごすことが出来ました。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

持ち物の管理に気を使い、特に人の多いバザールや地下鉄ではリュックを前に持つなどして荷物に常に手を触れているように心がけました。貴重品は必ず鞆の底にしまい、スマートフォンを手に持って移動することなどはなるべく避けるようにしました。またリュックの二つのファスナーの紐をねじるなどして盗難を予防していました。しかし、想像よりも遥かに安全に感じ、最終的に人混み以外では遊山してあまり気にすることが出来ませんでした。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	170000 円		振込
授業料	104000 円	1036US\$,50\$後に返却	現地で徴集
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	円	授業料に含まれる	ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	約 3000 円	= 210000 スム	現金
各自での交通費	約 700 円	= 50000 スム	現金
その他（小遣い）	20000 円	= 1400000 スム	現金
計	約 29万8000 円		

※ドルはいくら持参しましたか？ 30,000 円 = 270 ドル

バザールの陶器屋さん：模様がとても美しいです



ウズベキスタンの伝統工芸：スザニ



建物も豪華でとても美しいです



中央アジアっぽい景色、、、？



全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月
所属 & 学年 | 医学部 1年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

イスラムの文化に対して、理解を深めることが出来ること、フィールドワークを経験できること。ウズベキスタンは若い国であり、成長しようとするパワーを感じてみたかった。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

アンケート調査の対象を一般男性に絞って行ったが、協力してもらうのが難しかった。あらかじめ、調査が可能かどうか考える必要があったと思う。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

現地の言葉を少しでも話すことは、重要だとわかった。挨拶や、感謝の意などを現地の言葉で示すと、非常に喜んでくれた。また、ウズベキスタンは親日国家であるため、日本人と伝えると、親切に対応してくれるひともいた。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

健康の大切さがよくわかった。健康を損なうことで、心の余裕も無くなったり、適切な判断が難しくなったりした。日本のことについてしっかりと学ぶことも重要だとわかった。現地の学生と交流する場面では、日本のことをよく尋ねられた。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

常備薬は必ず持って行ったほうがよいと考える。私は普段、薬を全く飲まないが、研修中には非常にお世話になった。特に、胃薬は必須だと思う。ウズベキスタンに行くときは必ず腹痛に見舞われると覚悟しておいた方がよい。集合時間には、間に合うよう心がけるべき。特に、空港の出発時刻などに遅れると、多くの人に心配、迷惑をかけることになるので要注意。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	165700 円		振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	112000 円		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	3500 円	= 250000 スム	
各自での交通費	700 円	= 50000 スム	
その他（小遣い）	10000 円	= 710000 スム	
計			約 29 万円

※ドルはいくら持参しましたか？ 17000 円 = 150 ドル

自由記述欄 *後輩へおすすめしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

↓↓↓

他学部、他学年の人と親しくなるよい機会だと思います。日本には感じることの出来ないものに触れ、成長できます。学生のうちに、多くのことを経験しましょう。

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月

所属 & 学年 | 情報学部 2年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

青の都・サマルカンドの紹介と写真をインターネットで見た経験があったことから、以前からウズベキスタンという国に魅力を感じていた。本授業のことを知り、ウズベキスタンについてさらに調べていくと、その歴史や文化にも興味を持った。それらについて、日本ではもちろん、現地でも学んでみたいと感じ履修を決意した。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

授業では、毎回フィールドワークの計画を全員発表し、先生・ほかの学生と意見し合っ、自分の研究テーマやその手法をブラッシュアップしていった。自分の研究に関連するものであれば、様々な論文からいろいろなアプローチの引き出しを作っておくというと思う。

私のフィールドワークは、他の受講生と異なりアンケートを用いない手法であった。現地ですべての言葉が分析されるものであった。翻訳や分析の段で、言語の壁にぶつかることもあったが、先生からの的確なアドバイスをいただき、自分の研究の精度を高めていくことができた。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

事前授業では、中央アジア史などウズベキスタンについて知識理解を深めたり、海外における危機管理に関するオリエンテーションを受けたりした。海外での学習で特に興味深かったのは、タシケント国立法科大学で受講したイスラム法の授業であった。イスラムにおける教えの基盤となる考え方に触れることができたと感じる。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

海外研修中の生活で学んだことは、コミュニケーションにおける「伝えたい」という気持ちの大切さであると思う。ウズベキスタンは、ウズベク語やロシア語が主に使われており、どちらの言語も今回初めて触れることとなったため、初めは聞くことも話すこともできなかったが、身振り手振りを使ったり、「ここの言葉で話したい」という思いから少しずつ言葉を覚えていったりし、しだいにコミュニケーションが取れるようになり、現地研修の最後の方では、市場で、ウズベク語で買い物ができるようになっていた。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

ウズベキスタンの料理はどれもおいしく毎食楽しみだったが、気を付けていたこと、また、気を付けるべきだったことがいくつかあった。気を付けていたことは、脂っこい料理を腹八分目で抑えたり、日本から脂肪の吸収を抑える効果があるとされる烏龍茶の水出し用ティーバッグを持っていき食事の時に一緒に飲んだりしたことなどである。気を付けるべきだったこととしては、水分量の多いもの（サラダ、スープ、果物など）をよく食べていたにもかかわらず、水分を過剰摂取したため数日間お腹が緩くなってしまったことである。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	16万5700円		振込
授業料	986US\$		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）		授業料に含まれる	ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	3500円	= 25万 スム	現金
各自での交通費	600円	= 5万 スム	現金
その他（小遣い）	約 36000円	= 280万 スム	現金
計		約 31万6000円	

※ドルはいくら持参しましたか？ 40000円 = 約 360ドル

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情Ⅰ）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月30日

所属&学年 | 法学部 2年生

科目名	アジア現代事情Ⅰ
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

もともと慣習というものに興味を抱いていた。なぜなら、慣習は、個人という小さなコミュニティから世界という大きなコミュニティに至るまで広く影響を与えており、グローバルな社会において、慣習に着目することが、特定のコミュニティ全体を理解することにつながると考えているからである。慣習のうち、最も代表的なものであると考えられるジェスチャーをテーマとして、ウズベキスタンにおいてどのようなジェスチャーが用いられているかを調査し、確認されたジェスチャーについて日本のものと比較し、ジェスチャーの共通性や差異を見出すこと、ジェスチャーそのものの特徴や性質などを発見することをしたいと考えたため。また、今後ゼミ等で長期の留学をする可能性があるため、それに備え、短期の留学をすることで、慣れておきたかったため。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

調査内容に関しては大きく2つの知見が得られた。1つは、ウズベキスタンのジェスチャーには大きく3種類あり、①日本のジェスチャーと同様の形で、かつ日本のものと同様の意味をもつもの、②日本のジェスチャーと同様の形であるが、日本のものと異なる意味をもつもの、③日本にはないジェスチャーである。種類が多かったのは①で、世界共通のジェスチャーが存在しているためだと考えられる。もう1つは、ジェスチャーの頻度で、相手と親交がある時のほうが、無いときよりも高い頻度でジェスチャーを使用する傾向が見られた。

調査自体に関しては、調査前は、現地の方に自分が作成した台本を渡し、演技をしてもらい、その中で出てきたジェスチャーを記録する方法を主体に調査しようと考えていたが、あまりジェスチャーが観察されなかったため、現地の方が会話している様子を記録する方法や、パートナーにジェスチャーを見せてもらう方法に変更した。このことから、自分の調査計画の不完全さと調査が必ずしも順調に進まないことを学んだ。一方で、困難に対し、柔軟な対応を取ることができた点は成長を得られた。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

ウズベキスタンでは、ティムールを国家の祖のように見なしていることが分かった。ウズベキスタンホテルの前に大きな公園があるが、その中に大きなティムールの銅像が建っていた。歴史施設においても、ティムールは大きく取り扱われていた。また、ウズベキスタンの前大統領で、初代大統領のカリモフ大統領についても、かなり大事に扱っている様子であった。国の施設を訪れると、カリモフ大統領の言葉と名が記されていることが多かった。また、写真もよく見られた。この点は、日本と異なる点だと感じた。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

食事の面においては、想像していたよりも日本と共通する部分が多かった。主食に米が出てくる場面が多く、特にプロフという料理は頻繁に出てきた。また、野菜もトマトやキュウリが毎食出てきた。日本人の口に合う料理が覆う

と感じた。一方で、脂っこい料理も多く、特にシャシリックといった肉料理は油が非常に多かった。そのため、途中から、お腹の具合があまり芳しくなかった。料理面の違いで、体調を崩すことがあるという事を学んだ。インフラの面では、水道水が飲めないため、常時ペットボトルの水を携帯した。また、ホテルのシャワーでお湯が出ない事もあった。日本とは異なる点も多く、いい意味で常識が非常識になったことは学んだ事である。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

ウズベキスタンは、想像していたよりも治安がよかった。スリなどの被害もなく、安全に研修する事ができたが、油断は大敵だとも感じた。少し動向の怪しい人もいたため、常に注意を怠らないことが重要である。また、各地に警察も多く、時々カバンの中身を確認される事があったため、下手な事をしないことも重要である。さらに、観光地では外国観光客に対し、かなり高い値段を要求することもあるため、注意するべき。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	167960 円		振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	117,068 円		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	22,600 円	= 1,604,600 スム	現金 2.26 万円
各自での交通費	1500 円	= 106500 スム	
その他（小遣い）	30,000 円	= 2,130,000 スム	現金 3 万円
計		約	33.7 万円

※ドルはいくら持参しましたか？ 30,000 円 = 265 ドル

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 10月

所属 & 学年 | 農学部 3年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

僕は大学3年生になるまで日本から出てみたいという思いはあれども、なかなか実行に移せないままでした。そんな時に、高校の友達からこのプログラムの存在を教えてくださいました。授業として海外に行くのであれば、どうせなら今後の人生でそうそう自力で行けるような国へ、そして初めてなので語学力を上達させる目的でもなく短期間のものがいいと思っていたので、僕の希望に沿った科目だったことが履修を決めたきっかけでした。また、僕の好きな色は青色なのですが、この研修のチラシにも載っているようにウズベキスタンのイスラム系の建物の多くはとても綺麗な青色で装飾されています。それを実際にこの目で見てみたいという気持ちがこの科目の履修をさらに後押ししました。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

僕のフィールドワークは現地視察とアンケート調査がメインでした。もちろんフィールドワークの経験などありませんから最初はわからないことばかりで戸惑いましたが、数回の授業で先生や同期生から指摘をしてもらい軌道修正をしていきました。一番大切なことは、自分が何を聞きたいのかを明確にすることだと感じました。現地ではベアの学生に手伝っていただいで薬局とスーパーマーケットの視察をし、多くのアンケートを回収することができウズベク人の優しさを直に感じられました。ただ、日本のように学校でアンケートを記入させられることがないのか、ウズベク人はアンケートに不慣れな印象を受けました。

また、アンケート結果を集計している時には予想と違う結果が出てきたり、アンケートが思い通りに回答されていないなど、追調査ができない段階でのデータにどのように向き合うかという考察力が身についたように感じました。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

いつも生活している学部とは異なり、学年も専門も興味も異なる人たちが集結した環境で授業の一環として2週間過ごすというのは初めての経験でしたが、自分がよく知らない機械の使い方を他の人が知っていたり、流暢な英語で対応してくれたり、3人寄れば文殊の知恵という言葉のようにとっても頼もしいものだと感じました。また、授業等の際に誰もが素直に意見を述べてくださったことはレポートをまとめる際に大変参考になり、助かりました。

僕はウズベク語をほとんど覚えることなく現地へ行ってしまったのですが、数単語ではあるものの挨拶等生活に最低限必要な言語は自然と身につくものだと感じました。また、先生から教わったメールの際のマナーはどこの場面でも大変役に立っております。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

地下鉄や新幹線に入るために荷物検査が必要であったり、野良犬がはびこっていることもなく、水道水を口にすることができる日本がとても安全性の高い国であるということ、日本を出ることで感じることができました。今まで

身近に感じたことのなかったイスラム教の講義を受けてイスラム教徒の方と接することができ、どのような宗教であるのかを直に感じ、アジア地域のイスラムに対して抱いていた誤解のようなものを解くことができました。

また、まとめ買いすると安くなるからといって調子になって買いすぎると帰国してからどうしようか迷うことになると分かりました。日本人が珍しかったということもあるのかもしれませんが、様々なところで声をかけていただき写真を撮っていただく機会があり、ウズベキスタンの人の人柄の良さを感じることができました。ただし空港職員の態度の悪さには不満が残りました。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

渡航の際には必要ないであろうと思っていた風邪薬が、現地地で体調が悪くなった時にとても役に立ちました。風邪なんて引かないという慢心があったのですが、荷造りの際は常に最悪の場合を考えておく必要があると感じました。また、お腹は確実に痛くなるものだと考えておいたほうが良いと思いました。

現地でも度々リュックの後ろに立つ不審な人を見かけ、酔っ払いに声を掛けられ、地下鉄でも不審な人に声を掛けられました。比較的安全だからと安心せず、海外にいることを自覚して最低限の警戒は忘れないようにする必要があったと感じました。

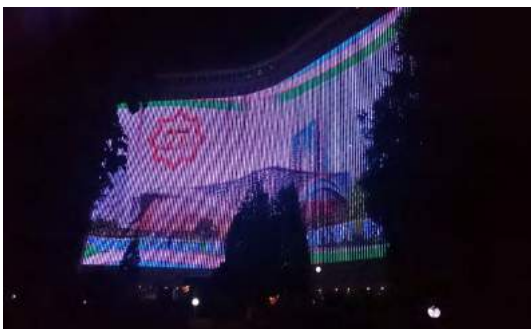
5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	16万5700円		振込
授業料	1,036US\$	50US\$は後に返却	現地得手渡し
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）		授業料に含まれる	
各自での食費	3500円	=25万スム	現金
各自での交通費	700円	=5万スム	現金
その他（小遣い）	1万5800円	=120万スム	現金
計		約30万2000円	

※ドルはいくら持参しましたか？ 2万8000円 = 250ドル(授業料は除外)

自由記述欄 *後輩へおすすしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

↓↓↓



タシケントの中心街の建物は、夜にホテルもマンションもイルミネーションが施されています。僕たちが宿泊したホテルもイルミネーションされていました(左の写真)、部屋で寝ようと思ってもカーテンの隙間から入ってくる自らの建物を照らす光で寝付きにくいことがありました。

市内には、東南アジアを彷彿とさ

せるようなマーケットや、近年話題のインスタ映えを意識したかのような建造物も確認できました。また、レゴで作られたモスクなどもあり内外に向けて集客力を高めようと





している努力の跡を感じることができました。その甲斐もあってか、研修中に何度か日本からの観光客の姿



を確認することができました。

青の都として知られているサマルカンドではその名にふさわしい荘厳で神々しい雰囲気で満ち溢れていました。この景色を見ることがこの研修に申し込んだ理由の1つであったため、とても感動させられました。とても人のお墓であるとは思えませんでした。

また、現地では日本人が珍しいこともあり多くの人に声をかけられ、写真も撮っていただくことができました。このように現地の人はとても暖かく、アンケートに回答してくださったことはもちろん、バスのドライバーの方とは最後にみんなで集合写真を撮ったほどでした。

最後に現地の代表料理を紹介したいと思います。まずはプロフです。日本でいう炊き込みごはんのようなもので、下の方に油がたまっているので注意が必要ですが、米が主食の日本人には馴染みやすい食べ物だと感じました。そして残念ながら



写真は無いのですが、シャシュリクと言う食べ物です。羊の肉や牛の肉が長い串に文字通り串刺しにしてある豪快な食べ物です。漫画にでも出てきそうなそのフォルムとボリュームに圧倒されましたが、今思い返せば残してしまったのがとてももったいなかったです。

直射日光はきついですが、ジメジメしていることもないので個人的には一夏の避暑のような過ごしやすい環境で2週間過ごすことができました。

初めての海外ということもあり経験した全てが目新しいものばかりで、一生心に残る素晴らしい経験をすることができました。閲覧ありがとうございました。

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月
所属 & 学年 | 文学部 1年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

高校時代に世界史を履修し、アジアの歴史に関してに興味があった。ウズベキスタンはシルクロードの中心地として複雑な歴史的背景を持った国であるため、遺跡を実際に見て、そういった歴史を肌で感じたいと思い応募した。また、個人の旅行ではなかなか訪れる機会の少ない場所であると感じたため、参加を希望した。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

今回はウズベキスタンの祝日について調査をしたが、祝日を通してウズベキスタンの人々がどのような文化を持っているかを知り、日本との異同について考えることもできた。筆者の場合、現地では主にアンケートとインタビュー調査を行ったが、ウズベキスタンには広場が多くあり、そこでゆっくりしている人々は、アンケートやインタビューを好意的に引き受けてくれる人が多かった。最初はしどろもどろなインタビューであったが、自己紹介と調査の目的をインタビュー時に説明することで、自分自身も研究の目的を再確認することができた。インタビューは現地の日本語を勉強している学生に翻訳してもらっていたが、学生に日本語で質問を伝える際、質問のニュアンスがしっかり伝えられず苦労した。改めて、「人に伝える」とはどのようなことかを考えることができた。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

名古屋での講義では、研究や調査の進め方から、アンケート作成、教授へのメールの送り方など、これから学部で研究を行なっていく基礎となる事柄を多く学ぶことができた。筆者自身1年生で、研究とは何かも満足にわかっていないような状態であった。しかしこの講義を受け、実際に調査を進めることで、調査を行う上での課題を自分なりに見つけ、改善していくことの重要性を知った。授業では、自分の調査に関する報告書を毎回作成し、発表した後に他の学生に方からコメントをいただき、自分の調査計画にフィードバックする。他の視点を得られるというのももちろんであったが、お互いに意見を通わせることで、実際の調査中も様々な場面でお互いアドバイスをしたり、話し合う機会を持つことができたりと、現地での活動をよりよくすることにも繋がっていたと思う。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

ウズベキスタンは治安も良く過ごしやすい国ではあったが、やはり日本と違う文化も多く、学ぶところもたくさんあった。今回大きく感じたのは、「交渉力」だった。ウズベキスタンでは、特にバザールなどでの買い物は基本的に「交渉」によって行われる。相手の提示してきた値段からいかに安くかつお互いの納得いく価格で合意するかを、話し合いながら探っていく。相手も職人さんであることが多いため、むやみに値段を下げることはプライドを傷つけることになる。相手の様子を見ながら自分の意思を伝えて実行する、大げさな言い方ではあるが、こういったことを日常生活で行う機会は日本ではあまりない。こういった事柄から、人とコミュニケーションをとるとはどういうことかを学びとれたのではないと思う。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

比較的治安のいい国ではあるが、パスポートやお金などの貴重品は、別の小さなカバンに入れて常に携帯するよう
にしていた。また、地下鉄や人ごみなど、場所や時間帯によって気を付けたほうが良いと感じた時は、カバンの上か
らスカーフで身体を覆ってスリなどに遭わないようにした。安全に関しての注意を払っている、という姿勢を見せる
ことが大切であると感じた。また、現地ではお腹の調子を崩すということがよくあると聞いたので、滞在中は毎日ビ
オフェルミンを飲み、脂肪の消化・吸収にいいと聞いたプーアル茶を夜に飲んでみた。ホテルにはポットはないが、
ロビーでお湯をもらって暖かいものを飲むようにした。その結果、私はお腹を痛めることなく滞在を終えたので、も
し今後ウズベキスタンに行く人がいれば参考にしてほしい。野菜や果物は、ホームページや外務省の安全の手引きを
見ると食べない方が良いと記載されているが、美味しいものが多いので食べていた。ただ、食べ過ぎはやはり危険で
あるので、量を自分でコントロールすることが大切である。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	16万5700円		振込
滞在費(宿泊費・食費・交通費・ 通信費)	976USドル		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	4000円	= 29万スム	現金
各自での交通費	700円	= 5万スム	
その他(小遣い)	36000円	= 280万スム	現金
計		約 31.7万円	

※ドルはいくら持参しましたか？ 約 48000円 = 418ドル (100ドルほど余った)



ウズベキスタンの伝統的な布「スザニ」。ざくろや唐辛子、花など様々な模様があり、それぞれ
意味が込められている。値段は様々であるが、バザールや土産物店で値段交渉をしながら買うの
も楽しみの一つである。



ウズベキスタンの伝統料理「シャシリク」。牛、鶏、ラムなどの肉を串で焼いた料理。イスラーム教が広く信仰されている国であるため、豚肉はない。筆者のオススメはラム肉である。ご飯が美味しいのもウズベキスタンの魅力の一つだと思う。



タシュケント市内の夜の街並み。大通りでは夜も人通りが多く、治安も比較的好い。テラスのようになっているカフェも多く、街もネオンで彩られており綺麗である。8月後半は、夜は涼しいため、散歩するのにちょうどよかった。

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月

所属&学年 | 工学部 2年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

イスラム文化を自分の目で見て、肌で感じてみたかったから。イスラム教は多く、これからも増えていくと予想できるので、イスラム文化について知ることは大切だと考える。また、世界史の勉強中に見た建築物を実際に見てみたかったから。大学に入ったら留学がしたいと考えていたが、このままいくと留学をせずに過ごしてしまいそうだったのでこの研修が交換留学に行くきっかけになればよいと思ったから。さらに、フィールドワーク、それを通した発表の仕方を学んでいけるから。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

まず初めに調査をするというのは相手にとってすれば日常生活を観察されるということなので、配慮が必要であるということ学びました。また、テーマの設定方法について、それに関連した文献の探し方なども学びました。アンケートの作り方についても学び、どうすればよりよいアンケートにしていけるのかを学びました。

現地においては、言葉が伝わりにくい中でのコミュニケーションが上達したように感じます。また、必要に応じて計画を変更していくことも学びました。論文形式の文章の書き方についても教えていただきました。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

ウズベキスタンについての文化、歴史を学びました。よく知らない土地であったので大変ありがたいものでした。さらに、海外に渡航する際の手順や海外滞在時の緊急事態への対応方法、注意しなければならないことについても学んでから海外での調査に出発しました。

また、メールの書き方についても丁寧に指導していただきました。今まで何となく丁寧に書いていましたがきちんとした書き方を学ぶことが出来、良い機会となりました。ウズベク語、ロシア語についてもあいさつ程度ですが少しできるようになりました。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

予想できることに対しては早めに準備しておくことが大切だと思いました。例えば、体調が悪い時に無理をしても迷惑をかけてしまうだけなので無理をしないとか、水を買わないといけなときは早めを買っておくといったことです。また、予想外のことも起こるので早めの行動を心がけることが必要でした。さらに、周りの人への気配りがとても大切だと感じました。先生が出発前に気配りができるとよいと言っていたのですが、学生のみで過ごす時間が多く体調を心配したり、困っていることがあれば助け合ったり、部屋で迷惑をかけないようにしたりと、気配りが必要だと感じた場面が多くありました。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

体調管理には気を付けました。お腹は壊してはいたのですが痛かったので気持ちの問題かなと思います。お腹を壊さないように注意していくのは良いですが、気にしすぎてしまった気もします。また、風邪もひかないように手洗い、うがいはしました。毎日一日中行動するので、寝て、その日の疲れをいかにとるかが大切だと思いました。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	169720 円		振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	117000 円 =1036 ドル		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	1400 円	12.38 ドル=100000 スム	現金 0.14 万円
各自での交通費	2000 円	18.57 ドル=150000 スム	
その他（小遣い）	17947 円	159 ドル=1284485 スム	現金 2 万円
計			約 31 万円

※ドルはいくら持参しましたか？ 約 16 万円 = 約 1,400 ドル

自由記述欄 *後輩へおすすめしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

↓↓↓

- ・通信は現地のSIMカードでデータを買って使うのが安くてよい。
- ・ドルで買えるお土産も多い。
- ・数字が言えなくても電卓で買い物、値下げ交渉可能。

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月

所属&学年 | 経済学部 1年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

元から海外に行くことが好きで、旅行や研修などいろいろ行く経験があった。入学前に名大の学校紹介に載っていたウズベキスタン研修の紹介を見て、旅行では絶対に行けない国であり、日本との景色の違いに驚き、入学したら必ず参加したいと強く思い、モチベーションにして勉強に励んだ。高校生の頃、世界史の授業を取っていたこともあり、実際に教科書に載っているようなところを直接自分の目で見るができることも魅力的に感じた。また、留学や旅行というと、多くの人は欧米やオーストラリアといった英語圏に行くことを聞かすが、非英語圏で過ごすことはどのような感じなのか、また自分がどれほど適応する力があるのか試してみたいと思った。そして、現地の学生と交流できると知り、遠く離れているウズベキスタンの同年代の学生はどのようなことを考えているのか、価値観や将来についての意見交換をして、友達になりたいと思ったため。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

魚は主にスーパーマーケットまたはバザールで売っていた。売られているものは主に川魚と海魚で、川魚はシルダリア川とアムダリア川より取れる。また、ウズベキスタンは内陸国のため、海魚は全て輸入しており、主な輸入先は、ロシア、ノルウェー、韓国、ラトヴィア、リトアニアである。魚は鮮魚は川魚が大半で1本そのまま販売されており、干し魚や、缶詰め、燻製された魚は海魚も含まれていた。魚は主に冬に食べられることが多いということで、あまり種類も少なかった。調理の仕方としては、サラダ、スープ、揚げ魚、お酒のおつまみとして干し魚が挙げられ、最近ではファストフードで fish&bread というものもある。実際に食べてみると、サンドウィッチにサバの塩焼きが挟まれており、ノルウェー産のサバを使用しているようだ。ウズベキスタン滞在中主に肉を食べていたが、魚も食べられることをフィールドワークを通して学んだ。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

ウズベキスタンには信教の自由はあるが、ほとんどの人がイスラームで古くから文化としても根付いているのではないかと感じた。だから、知り合いに会ったときの挨拶は長く、お茶が出たときは湯飲みに入れ、ポットに入れるといったことを繰り返して清め、コミュニケーションを大切にすると聞いたことをしているのではないかと考えた。イスラームはお見合いが基本で、ブハラでのペアの人は、28歳になったらお見合いさせられると聞いていた。また、その人は仕事が大変で家族もロシアに出稼ぎに行ってしまう、一人で暮らしていて、つらく大変なことも多いそうだが、「神が、私にたくさんの仕事を与えた。だから私はいろいろなことをできるようになった。」とつらさを嘆くことなく、前向きに自分の運命だと受け止めていた。違う国に住んでいると、文化も、考え方も違うのだと学んだ。また、ウズベキスタンで私たちが交流した学生は、とても生き生きしており、強い意志、夢を持って勉学に励んでいると学んだ。日本が急速に発展した経済の所以を学ぼうと日本に留学したいと思い日本語を勉強している学生もおり、日頃の学校生活を無駄にしてはいけないと痛感させられた。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

海外のホテルはいくら評価が高くても、必ずしも日本で期待できるアメニティーがあるとは限らないということ。泊まった部屋には、ティッシュがないことに驚いた。しかしながら、ティッシュがあることが当たり前だと思っているのも、日本で生活している私たちにとっての思い込みであると学んだ。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

私は高校生の時、アメリカ研修に参加した際に行ききの飛行機で携帯電話をなくした。だから今回はまず、携帯電話をなくさないことを強く意識した。また、そのことを含め、パスポートとお金も無くさないように持ち物の確認は頻繁に行うようにした。もちろん油断禁物だが、今まで訪れたほかの国と比べると、ウズベキスタンは比較的安全であると感じた。こんなに夜遅くまで出歩けることも不思議に思う。この治安の良さはおそらく、街でよく目にした警官の多さによるものではないかと感じた。また、イスラームの人が多くことから困っている人は助ける、神はすべて見ていたといった考えから、意識的に規律良く生活している人の割合が多いのではないかと考えた。その一方で、お釣りを少なく出す店員さんもいた。だからしっかり確認することが大切であると学んだ。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	144,190 円		振込
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	116,032 円	1,036 ドル 8月25日レート 1\$=¥112	ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	3000 円	= 215,000 スム	現金
各自での交通費	1120 円	= 78,400 スム	
その他（小遣い）	24885 円	= 1,742,000 スム	現金
計		約 29 万円	

※ドルはいくら持参しましたか？ 56,000 円 = 500 ドル(260 万余り)



新しい道を作るために取り壊しが進んでいる古い町並み：ブハラ



寄付をすれば写真を撮らせてくれたモスク: ブハラ)



お洒落な店内の壁画: ブハラ

全学教養科目・特別講義（アジア現代事情 I）のふり返し報告書

記入 | 2018年 9月

所属 & 学年 | 情報学部 1年生

科目名	アジア現代事情 I
渡航先など	ウズベキスタン共和国：フィールド調査、名大ウズベキスタン事務所 訪問先（世界経済外交大学、サマルカンド国立大学、タシケント国立法科大学、日本ウズベキスタンセンター、日本国大使館など）
海外での学習期間	2018年8月26日～9月8日

1. 履修のきっかけや動機

まだ知らない文化を経験することで、自分の視野を広げ、多様な考え方をもちたかった。発展途上国と日本のような先進国を比較して、それぞれの強みや改善点を認識し、これから自分がこれらの国のために何ができるのかを考え、将来のビジョンを描いていきたかった。同じ履修生や現地人との交流を通して、語学勉強を始めとする学習活動のモチベーションとしたかった。海外へ行くことのスタートアップとしたかった。他の人がなかなか行かない国へ渡航することで、自分のオリジナルティや価値を高めたかった。

2. フィールド調査（授業内・外、個別指導等）を通して学んだこと

研究をはじめから自分で考え、企画計画し、実行してみ、評価反省し、報告書を書くことから、研究のおもしろさや難しさを学んだ。ウズベキスタンに渡航したことがないにもかかわらずそれをイメージしてどんな研究をしようかと考えること、見知らぬ土地で言語が伝わらない環境の中で研究をすること、自分でアンケートを作ってそれを分析すること、初めての論文形式での報告書を書くことなど、様々な新しい経験をしながらたくさんの困難に出会いつつ、そのたびに圧倒的成長をすることができた。またそれらの困難の中で自分一人では到底なしえないことでも、先生や現地の人からの手厚い支援の下で、自分一人で何とかしようとするのではなく、人を頼ること、さらには人の温かさを学んだ。

3. その他、名古屋と海外での学習（授業内・外、個別指導等）で学んだこと

名古屋では履修生それぞれのフィールド調査の計画から報告までを共に考えながら、自分だったらどうできるかを常に思考することで、履修生全員分、つまり12人分のフィールド調査をした気分であり、教養が深まった。現地では世界遺産のような歴史的な史跡を視察することで、普段はそこまで関心がなかった世界史の知識を学び興味が出てきた。現地学生との交流で、ウズベキスタンでの、そして日本での社会問題や課題について話し、ウズベクの現在や改善可能ポイントを認識したり、日本を新たな視点でとらえるきっかけとなった。ウズベクの街を歩いたり、食事をしたり、人と話したり、全てのウズベクでの経験が日本とは違い新鮮で、異なる文化を経験して自分の視野を広げたとともに、日本の再認識へと繋がった。

4. 海外研修中での生活で学んだこと

日本の素晴らしさ。日本において建物が清潔なこと、水が飲めること、温かいお湯が出ること、明かりがつくこと、トイレの水が流れること、トイレの紙が細やかなこと、きりがいいが本当に日本にいる時の当たり前は、実は素晴らしいことだって認識できた。人の温かさ。ウズベク人は日本人よりフレンドリーに感じて、よく話しかけてくれた。日本では公共の場で知らない人と関わったりすることは多くはない気がしているが、その環境とか関係なしにその人だけを見て話すことをウズベク人はしていて、自分も見習いたいと思った。日本でも人と人との関わりがもっと

増え、人の温かさをより感じやすい社会を作っていければより良くなれるのかなって考えた。

4. 渡航や危機管理について気を付けたこと、気づいたこと

忘れ物をしないこと。海外であるため、無くしたものは現地で調達できないものが多いと考え、注意を払った。一人でいる人を生じさせないように心掛けた。写真を撮っていたり、お店を見ていてひとりになる人がたまにいて、そういう人が一人ではぐれないか注意していた。履修生一人ひとりの体調を見ていた。たびたびメンバーには体調はどうかと尋ねたり、様子を見るようにしていた。物の置きっぱなしは控えて、置いておきたいときは友達に見ていてくれるように頼んだ。

5. 海外研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考	支払方法
航空運賃&ビザ、海外旅行保険	140000 円	ビザ免除	振込
授業料	0 円		
滞在費（宿泊費・食費・交通費・通信費）	100000 円		ウズベキスタン事務所へ支払
各自での食費	7000 円	= 504000 スム	現金 0.5 万円、カード 0.2 万円
各自での交通費	2000 円	= 144000 スム	
その他（小遣い）	13000 円	= 935000 スム	現金 1.5 万円、カード 0 万円
計			約 26.2 万円

※ドルはいくら持参しましたか？ 73000 円 = 650 ドル

自由記述欄 * 後輩へおすすめしたい情報やエピソードなど自由に記述して下さい。写真添付も歓迎します。

↓↓↓

- ✓ ウズベク語やロシア語など現地言葉を少しでも勉強していくと充実しそう。私は現地の人と現地言葉で話したくなって、帰国後にロシア語を学び始めました。
- ✓ 訪問予定の史跡を勉強していくと、実際訪れて視察するときに理解が深まる。